

第2回 EPO 中部運営会議・2019 年度業務に対する委員のご意見

■協働コーディネーターの活用展開（地域循環共生圏づくり研究会の開催）について

加藤委員	協働コーディネーターの報酬が担保されない前提でコーディネーターの活動を活性化させていくには、P4 図にある「コーディネーターの職能」毎にプラットフォーム構成機関からの報酬が確保されるように働きかけていくことが重要だと思います。特に、SDGs マッチングコンサルテーションによる報酬を企業が負担するようなパラダイムを構築していく必要があると思います。環境省はこの点について啓発を行い、EPO 中部は企業等へのコーディネーター紹介時にこの点に理解を求める又は徹底する役割を担う必要があるように思います。 また、コーディネーターの資質向上を図ることもEPOの重要な役割であると思います。資質向上を図る役割を明示化するとともに、研究会がそうした場になっていくべきではないかと思います。従って、研修の場を研究会で確保していくことが必要だと思います（参加形態は遠隔地からのライブ等での参加もあり、在宅研修のありようも要検討）。
中里委員	協働コーディネーターと地域循環共生圏づくり研究会との位置付け、関わりが協働コーディネーターの中には理解出来ていない人もいるのではないかと思います。再度協働コーディネーターに研究会との関わりを認識してもらい、EPO中部の事業への協力を依頼する必要があるのではないかと思います。
田辺委員	神通川流域で飛騨と富山で連携して富山湾のプラスチックごみ問題等を考えていく取り組みを富山大学・企業と調査する案が出ている。そのような事案発生時に協働コーディネーターが活躍する機会を作れるようにしたい。それに伴い、協働コーディネーターと気軽にコンタクトがとれるツールがあると良い。（以下、広報展開にて記載します。）
松井委員	協働コーディネーターの研究会が充実した内容で行われ、目的が明確化されたことは良かったと思う。 13名の方々がネットワークすることで何が可能になるのか、より具体的にアピールできるとよい。
新委員	・『第2回研究会の「地域循環共生圏づくり」ディスカッションの結果』にあるように、協働取組みの持続可能性担保のためには、ビジネス（生業）化の視点は重要である。 ・今後の協働コーディネーターの取組みはこの方向へのシフトが必要と思う。

■「活動見える化プログラム」構築（ケーススタディの実施結果）について

加藤委員	経緯チャートと分析チャートは随分分かりやすくなったと思います。その上で、経緯チャートでは対象課題に対する活動成果がもう少しシャープになると良いと思いました。また、分析チャートでは協働による地域活動の関係主体や地域循環共生圏貢献にメリハリがあった方が良いと思いました。メリハリとは、地域活動で中心になったプレーヤーは誰か、貢献出来た内容として中核的なものは何か、が伝わった方が良いと思いました。現状ではいずれの関係者や貢献内容も一律に見えますが、実態はそうではないように思えます。この点、各活動の特徴を表す上でも表現上の工夫が必要ではないでしょうか。
中里委員	活動見える化プログラムの構築は、活動の成果を記録として残す必要性和今後同様の活動を行う人達にとっての参考事例として活用してもらうため、有効かつ必要なものであると思います。
田辺委員	協働相手・SDGsの貢献は可視化できた印象です。見える化の主旨が、新しい協働相手・支援者・住民への説明材料とするなら、アニメなどで説明した方がわかりやすい印象。（以前の委員会でも同様の意見があったかもしれないが。）また、将来的には例えば経済の側面ではこのような協働事例がある、と逆引きインデックスのような使い方がインターネット上で見ることが出来ると世界どこからでもプロジェクトへの参画者、他地域へのプロジェクト展開にも寄与できると思いました。
松井委員	「見える化プログラム」が検証され、具体的な説明ツールになりえていることは評価できると思う。協働取組の内容、地域循環共生圏、SDGsを1枚に表す手法は重要だが、行政以外の主体が活用するにはやや複雑なので、これが普及するよう、比較的シンプルなフォーマットが作れないだろうか。
新委員	・「活動経緯チャート」及び「活動の意義（評価）分析チャート」は Good job! と思う。 ・「活動経緯チャート」はシーケンシャルに活動の主体（ステークホルダー）、目的、経緯、成果を説明するのに使い勝手がよいと思う。特に、事例1の活用事例にあるように行政職員が内部に説明する資料としては使いやすいと思う。（ただし、民間団体、企業に対する説明資料としては「わかりにくい」と言われるかもしれない） ・「活動の意義（評価）分析チャート」は、ランダムアクセスにステークホルダー間の関係、活動の意義（評価）、SDGsとの関係を直感的に把握することができ、「どんな活動ですか？」と問われたときに「こんな活動です。」とこれを示せばいいものになっていると思う。

	<p>・「協働による地域活動」には、活動主体（事例2 でいえば、NPO 法人WACおばま、NPO 法人若狭くらしに水舎）が4 項目の活動ごとに多様なステークホルダーとの協働を進めていることを表現しているが、活動主体とステークホルダーとの関係を表すのはステークホルダー側から活動主体への矢印が出ているのみなので、どのような経緯で協働するようになったのかわからない。提案であるが、あるステークホルダーとの連携がはじまった最初の契機を矢印の方向と矢印にテキストを添えて表現したらどうか。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD PTA((PTA)) -- "会長から協働申し出" --> A[活動1] S[小学校] -- "ESDシンポジウムで意気投合" --> A H[高等学校] -- "校長に協力依頼" --> A </pre> <p>イメージ</p> </div> <p>・複数の活動のチャートを見比べることにより、自らの活動（主体）の強み・弱みなども見えてくると思う。このチャートをもとに当該活動（主体）のSWOT分析を行い、バックカスティングの戦略立案につなげていくことが可能と思う。</p> <p>・これは、協働取組みのビジネス（生業）化のためにも必要である。</p>
--	--

■主催フォーラム等開催イベントについて

加藤委員	各イベントに対して相当に労力をお掛け頂いていると思います。そのため、今後は集客の向上に努めていく必要があると感じます。自治体の協力を得ることが得策だと思いますが、いかがでしょうか。目標とすべき集客数を掲げ、関係機関に呼びかける役割（誰か）を位置付けた方が良いと感じます。
中里委員	地方においては、環境に関するフォーラム等の開催は少ないので、名古屋だけでなく北陸や信州でも同様の機会があれば地元で活動している人にとっての啓蒙や知識の習得に繋がるため、今後も継続されることを期待します。
田辺委員	「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会が昨年10月に富山市で開かれ、富山市民の環境意識が高まっている気がする。次年度は富山市での開催も検討できますか？
松井委員	参加できなくて申し訳ありません。参加者の評価は全般に高く、評価できる。他の参加者との交流がやや満足度が低いので、もっと議論の場を多くするといいいのではないかと。

■広報展開について

加藤委員	WEBやSNSの活用は大変良いと思います。個人的には、データ集の作成が今後の分析や広報、事例紹介等に生きていくと思いますので、その設計に力点を置いて頂けると良いと感じました。
中里委員	広報することで活動成果の見える化や事例紹介等が出来、今後の参考事例としての活用やノウハウの集積・共有化が図れるので必要であると思います。
田辺委員	<p>EPO 中部が情報発信先となり、パンフレットだけでなく、ホームページ上でのコーディネーター紹介ページ、それを SNS 発信するなど気軽に個々がつながるような方法を検討できると良いかもしれません。あと、EPO 中部の事業だけでなく各自治体の環境啓発情報もこちらでキャッチし、発信するなど。</p> <p>夏に富山市で実施した「まちなか de クールシェア！」は当法人の事業と共催で富山市環境政策課が実施したのですが「社会課題×エンターテインメント」の要素が綺麗に市民に受け入れられ、ディズニーランドのように人が並んでいました。</p> <p>https://www.city.toyama.toyama.jp/kankyobu/kankyoseisakuka/ondankataisakukikaku/ekidewarmahare.html</p> <p>このような中から、市民の環境意識は醸成されていくのではないかと感じています。環境Facebookページ拝見しましたが、まだ開設して間もないのでいいね数やフォロー少ないので、どんどんPRできると良いと思います。（いいねしておきました。）</p>
松井委員	発信力をどう高めるかはむずかしい。Facebookのフォローが40人とまだ少ないので、協働コーディネーターに積極的に拡散していただいたらどうだろうか。

■その他業務について

加藤委員	WEBのリニューアルについて大変良いお取り組みだと思います。
田辺委員	飯山の事例、すごく良い事業です。中山間地の他地域でも展開が出来るようなものと感じました。飛騨地域での展開のため本事例、勉強してみたいと感じます。